

石垣島の名前 由来に宿る記憶

渡辺仁史



think the future from

hitoshi watanabe lab.

●石垣島の名前に刻まれた歴史

石垣島という名前は、沖縄県八重山地方の自然と歴史を今に伝える地名で、地域の生活や歴史が色濃く反映された複数の語源説が伝わっています。

●垣根から生まれた呼び名

まず有力な説に、「牧場の垣根」を意味する「しがき」から転じたというものがあります。かつて牧場を囲うための垣根を「しがき」と呼び、それが東アジアの古書『続日本紀』の和銅7年（714年）条に「信覚（しがき）」として表記され、時間とともに「石垣」という字になったという変遷が語られます。奈良時代には八重山の使者「信覚国」が朝廷に参上した記録もあり、これが現在の石垣島に比定される根拠となっています。このように、地名の由来には土地の生活や歴史的記録が関わっていることが伺えます。

●方言が映す自然の姿

また方言説も注目されます。石垣島には「イシャナギィ」や「イシャナギラ」と呼ばれる地名があり、これは「石が多い場所」を意味する八重山方言が由来とされます。石が豊富な地形や風景が島の呼称となった例で、生活環境が地名に色濃く投影されたことを示します。自然や環境そのものが地名となるのは全国的にも珍しいこと

ではなく、島民の生活感覚に根ざした説と言えるでしょう。

●一族伝承と地域の記憶

一方、民間伝承や地域資料の中には「石垣氏」と呼ばれる一族が1600年頃、八重山地方の行政官（頭職）として島の開発や統治に寄与し、その苗字が島名になったという説も見受けられます。しかしこの「石垣氏」に由来する説の確たる一次資料や学術的根拠が乏しく、地域の物語や伝承として紹介されることが多いです。石垣氏の苗字は今でも島内に多いですが、地名との直接的な関係を裏付ける史料はありません。このため、「石垣氏由来説」は今のところ民間伝承や地域の話題として位置付けられています。

●多様な由来が紡ぐ島のアイデンティティ

このように石垣島の地名は、「しがき」垣根説、「石が多い」方言説、そして伝承的な石垣氏説など、多様な語源が絡み合っています。琉球・八重山の自然、民俗、そして文献史料の断片が複層的に響き合う中、島の名前には単なる地理的意味以上の歴史と文化が息づいているのです。地域の人々はこうした由来とともに島に誇りを持ち、その記憶を未来へ伝えていきます。



石垣島上空（宮良、白保地区）